



ここが気になる？セルフ・チェック

今回は、「口腔扁平苔癬（こうくうへんぺいたいせん）」と「陥入爪（かんにゅうそう）」です。

「口腔扁平苔癬」は頬粘膜や歯肉や舌に白色レース状の病変を呈します。自覚症状には、口腔粘膜の荒れ、出血、不快感、味覚異常などがあります。経過中に約1%程度が悪性化するとされています。「舌の違和感」・「舌が白い」が舌癌の初期症状ってこともあります。舌のSOSサインを見逃さずに早めに受診しましょう。

「陥入爪」は爪の先端や側面が爪のまわりの肉にささり、皮膚の中に食い込んでいる状態です。合わない靴が爪の変形を招いたり、爪の水虫が爪の変形の原因となることもあります。決して重い病気ではありませんが、症状が進行すると治りにくくなり、細菌が侵入すると赤く腫れあがり化膿します。糖尿病の方は足壊疽の原因になることもあります。陥入爪は一度治っても根本原因の改善がなければ、再発します。気になるかたは専門医を受診しましょう。

健診センター 部長 田中督司

かんにゅう 陥入爪

爪の角にあたる所が痛い。

YES NO

爪の角が皮膚に食い込んでいる。

YES NO

爪の角のあたりが腫れて赤くなっている。

YES NO

口腔扁平苔癬

口腔粘膜、特に頬に白い隆起や潰瘍がある

YES NO

ピリピリとした痛みがある

YES NO

治りが悪い、長期間に経過している

YES NO



皮膚科 医師 荒井利恵



歯科口腔外科 医師 高橋真也

爪は適度な長さが必要であり、深爪が陥入爪の原因となります。足の第1趾に生じやすいですが、他の手足の爪にも生じます。巻き爪を合併することもあります。ひどくなると角のあたりを押すと膿が出て、さらに悪化すると易出血性の肉芽を伴うようになります。軽度の場合はテーピングを行って、爪の角先を露出するようにしてもよいですが、膿や肉芽を伴うようになると、近くの皮膚科専門医に診てもらふ必要があります。

口腔扁平苔癬は、口腔粘膜に難治性に経過する粘膜疾患です。表面は様々な様相を示しますが、代表的な所見は両側に網目状の白い線が頬粘膜に見られるものがあります。好発年齢は40代～60代とされ、女性に起こりやすい病気と言われています。原因は様々で、自己免疫疾患や薬剤性、歯科治療で使用される金属や樹脂によるアレルギーや精神的な負荷等多岐に渡り、正確な原因は不明な疾患です。

確率は低いながら、口腔がんに変化する可能性もある疾患である事から注意を要する為、上記症状がある際には、早めに受診される事をお勧めします。